コラム 学びを活かす仕事

国連の活動を伝え、世界と日本の人々をつなぐ

世界では今、どんなことが起こっているのでしょうか。世界各国で起こる貧困や紛争に対して、日本で暮らすわたしたちは、何ができるのでしょうか。世界とわたしたちとをつなぐ、国際連合広報センターの根本かおるさんに、お話をうかがいました。

国際連合広報センター所長 **根本 かおるさん**

✣プロフィール✣ 1963年、兵庫県生まれ。東京大学法学部卒業。86年テレビ局に入社。94年アメリカのコロンビア大学国際関係論大学院に留学。96年に卒業後、国連職員に。国連難民高等弁務官事務所などを経て、2013年より現職。

国際連合広報センターではどんなお仕事をされていますか？

国際連合（国連）は、現在193か国が加盟する大きな国際機関で、活動の3つの柱は「平和」「開発」「人権」です。東京にある国連広報センターは、こうした国連の活動を日本の人たちへ伝える仕事をしています。同時に、日本が国連に期待することなど、日本からの情報を国連に向けて発信し、国連と日本とをつなぐ役割もしています。広報センターには、世界で起こっているさまざまなニュースや、国連の活動報告など、ぼう大な量の情報が毎日届きます。そのなかから、国連が力を入れている活動や日本の人たちにぜひ知ってほしい情報を選び、ウェブサイトや新聞、テレビ、講演会などを通じて伝えています。

国際関係の仕事に興味をもったきっかけと、その後の活動を教えてください

小学校3年生の冬に、父の仕事でドイツに引っ越しました。日本人はめずらしかったので、注目されることが多く、手先の器用さや九九を使った計算の速さに感心されるいっぽう、アジア人であることを理由に学校でからかわれることや、町で見知らぬ人にののしられることもあり、子どもながらに外国人の権利保護の必要を感じました。また、当時のドイツは、西ドイツと東ドイツという2つの国に分かれていました。なかでもベルリンという街は、ある日突然つくられた壁によってひとつの街が東西2つに分断され、自由に行き来することができなくなりました。親せきに会えないクラスメイトもいて、国際政治がわたしたちの生活に大きく影響することを実感しました。大学で国際法や人権法を学んだのも、テレビ局の仕事を始めてから留学したニューヨークの大学院で人権や難民について学んだのも、このころの体験が関係していると思います。

大学院時代のインターンシップから始まった国連の仕事では、おもに難民支援を行いました。世界各国の難民キャンプを訪れて強く感じたのは、彼らが生きることをあきらめていないということです。その生きぬく力の強さに多くのことを学び、決して明るい話題ばかりではない難民支援の仕事を続けていく支えにもなりました。こうした体験やマスコミでの経験をもとに、現在、広報活動をしています。

◀ケニアの難民キャンプを訪れ、子どもたちと交流する根本さん。

世界で活躍するために必要なことは何ですか？

好奇心をたいせつにし あらゆるちがいを楽しむ心をもつ

好奇心はその人の素直な気もちが表れたものです。ぜひ好奇心の向くままにいろいろなものを吸収し、多くのことに目を向けてください。たとえば、日本にも難民は生活しているし、貧困の問題もあります。また、ちがう文化、ちがう考えをもった相手と、おたがいを尊重し合い、いっしょに楽しめるとよいですね。

※インターンシップ … 一般的には学生が、企業や公共団体などで、実習や研修をとおして就業体験を行うこと。
※難民支援 … 戦争や迫害のために生まれ育った国からのがれた人たちを、難民として認定し、住まいや食糧の提供や心のケアなどを行うこと。

「マナビゲート 2014」
NPO法人 学びの支援コンソーシアム事務局 （株）大学通信